

5	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15104006	スピン・電荷・光-結合系の新機能開拓	五神 真(東京大学・大学院工学系研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>中核的研究拠点形成、特別推進研究(COE)の成果を継続してさらに研究を進展させ、本研究の目的は達成されつつある。</p> <p>特に一次相転移可能な薄膜資料の開発、全光金属・絶縁体相制御の実現、巨大電気磁気光学効果の探索、三角格子モット絶縁体での量子スピン緩和機構の発見、スピンホール効果・光ホール効果の提唱、強相関物質に特徴的な低エネルギー領域の分光計測技術の開拓等、成果が得られた。</p> <p>しかし、本研究プロジェクトの代表者や分担者はこの他にも多くの関連プロジェクトを有しており、これまでの成果のどこまでが本プロジェクトによるものか明白でない点がある。また基盤研究(S)の趣旨を踏まえた経費執行となっているのか疑問もある。</p> <p>このため、本プロジェクトの研究者は今後、基盤研究(S)としての成果を明確にし、研究代表者と分担者の連携をより密にして、さらなる成果を上げていただきたい。</p>				
6	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15104007	梅雨前線帯のメソ対流系の海上における発生・発達機構の解明	上田 博(名古屋大学・地球水循環研究センター・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>本研究は数値モデルと航空機観測の2つの手法の融合によって、梅雨前線帯のメソ対流系の発生・発達機構を解明する点に特徴がある。数値モデル結果に関しては、web公開を進めるなどある程度の成果が認められる。航空機観測に関しては、水蒸気前線の実体を観測的に明らかにした点は評価されるが、有効な事例が少ない点が、問題点として挙げられる。観測研究が抱える困難な点があると思うが、観測時期の精緻な設定など綿密な研究計画のもとで、有効な観測事例を蓄積し、研究目的のメソ対流系の発達機構および水・エネルギー収支の解明にあたって欲しい。</p>				